

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100202		
法人名	特定非営利活動法人 和		
事業所名	共生型多機能施設 コロイ ・ グループホームコロイ		
所在地	釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目5番3号		
自己評価作成日	平成26年3月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100202-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共生型施設としてそれぞれが寄り添い尊重しながら共生していける場所作り、また、小さなコミュニティという特色を生かし、誰もが気軽に立ち寄り和んで頂けるような場所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域との交流>
利用者が地域とつながりながら暮らせるように地域の幼稚園のお遊戯会や小・中学校の学芸会、運動会見物等の行事に参加したり、婦人会や地域の独居の高齢者の見守りボランティア(おたすけ隊)の協力で事業所の七夕まつりやクリスマス会等の行事参加協力、地域のお祭り参加等で地元の人々との交流を図っています。

<家族との信頼関係の構築>
家族との連携を大切にし、訪問時や電話で本人の体調の変化や近況を報告しています。また、事業所の行事や運営推進会議等にも積極的に参加して貰えるように促したり、家族会を開催して利用者や職員との交流ができるように取り組んでいます。今後は生活記録や献立表、運営推進会議の議事録等も事業所が発行する通信と共に送付し、事業所の取り組みを理解してもらい、家族との信頼関係を築いて行けるように計画しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念とスタッフ全員で作った介護理念を常に意識しながら、実践につなげるようにしている。	地域密着の意義を踏まえた事業所独自の理念を職員が参加して作りあげ、全体会議や日々の申し送りの際に振り返る機会を作り、管理者や職員は共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園、小、中学校の行事にもできるだけ参加をしたり、婦人会やおたすけ隊などのボランティアの皆さんの協力を得て、七夕まつりやクリスマス会、お餅つきなど地域の皆さんとの交流の機会を大切にしている。	利用者が地域とつながりながら暮らせるように幼稚園、小学校、中学校のお遊戯会や学芸会、運動会見物や中学校の吹奏楽部による演奏会、地域のお祭りへの参加等、地域の人々に事業所を理解して貰う取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護を身近に感じていただけるように、老人会の方々とカラオケで交流したり、色々な催しを開催して気軽に立ち寄れる環境を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新体制に伴い運営推進会議のメンバーを増員することにより、地域の皆さんの意見など伺える機会を設けています。	運営推進会議は、年6回を目安にを開催し、火災避難訓練の実施や事業所の取り組み等について意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	閉鎖的にならないように、施設の状況報告や難ケースの相談をしケアに活かすようにしています。	町担当者及び包括支援センター職員とは、運営推進会議や日常業務を通じて交流を図り、事業所内の実情を理解して貰い、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケースカンファレンスや打ち合わせ時に定期的に虐待・身体拘束をテーマとし啓発しています。	管理者及び職員は指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を外部研修や法人内研修を通じて正しく理解し、身体拘束をしないケアが行われている。また、玄関は夜間帯の防犯目的以外の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を設け、カンファレンスなどで定期的に、虐待、身体拘束をテーマに話し合いの場を設けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用している方がいるので、後見人の方と話し合いの場を設け、管理者や職員が制度について理解をし、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	提供する介護サービスの内容、限度などを明確に説明し、理解をして頂いた上で契約していただいています。重要事項なども読み上げ疑問に感じる部分にも納得していただける説明を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事などでご家族様や関係者の方が来訪された際に、意見や苦情、要望などを伺い支援体制に反映しています。	訪問時に利用者の近況報告と共に意見を言って貰えるように取り組み、家族からの意見や要望は速やかに話し合い、改善するように努めている。また、苦情等を第三者機関に相談できるように重要事項説明書を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やスタッフ会議の時に意見、要望などを聞く時間を作ったり、個別にも話を聞く時間を設けています。	管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛けており、年1回の個人面談や毎月の全体会議、日々の業務の中で職員の意見、提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、資格、経験等に応じた処遇を行う事を基本とし、向上心を持って取り組めるような環境づくりをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価を実施してもらい、それぞれのレベルを知ることによって次の目標、課題を設け、取り組んでもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の研修会などに参加したり、同法人内で行われている研修会などにも積極的に参加をし、意見交換なども活発にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約時に、ご本人・ご家族より細やかな部分まで聴取しアセスメントを作成、ご本人の望まれる生活や支援方法を明確にプランに反映させるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から不安や要望など詳しく伺い信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階の状況や状態を把握し、今何が必要なのか？といったことを意識して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として常に敬い、寄り添うことで同じ時間を共有しよい信頼関係を築けるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり面会に来られないご家族様にも、定期的に電話などで連絡を取り状況などをお知らせし、ご家族様からのアドバイスもケアの参考にさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店での買い物や、外出をすることで出来るだけ可能な限り関係が途切れないように支援しています。	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、可能な限り地域のお祭りへの参加や日常的に買い物、友人・知人宅への訪問等、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで何かをする楽しさを皆さんで共有をしていただいたり、孤立しないように職員が間に入り調和を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様やそのご家族様が気軽に立ち寄れる環境、施設を目指しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の生活スタイルにより近づけるような居心地のいい空間に出来るよう目指しています。困難な場合は、その方にストレスのかからぬよう配慮し納得していただく努力をしています。	センター方式やアセスメントシートを活用し、家族からの情報や生活歴、日常の会話や表情などから思いや意向を把握している。また、職員全員で情報を共有し、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ生活歴に沿った支援、既往歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人、個別対応を基本の考えとし、その人に合わせた支援方法を考えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの目線ばかりにとらわれず、ご家族様や関係者からの情報や意見なども参考にプラン、支援の方向に取り込んでいます。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いをケアプランに反映させるよう取り組んでいる。また、毎月の全体会議で担当職員を中心に課題を全員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りなどで重要な事項を伝達、共有し新たなプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方に住んでいる方などに対し、入居者様と一緒に訪問したり、家族会(食事会)などを企画したりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の生活にあった地域資源を有効活用しプランにも取り入れていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関では対応しきれないケースがあるので、近郊の医療機関をかかりつけとし、Drの意見を反映しプラン作りを展開しています。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となるよう努めている。また、専門医への受診についても家族と相談しながら法人の看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフで判断できない事等は小規模スタッフの看護師に相談し、適切な処置・対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関では入院機能があまり期待できないことが多いので、大型の医療施設に受診の際にケースワーカーや看護師に相談するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携が困難な地域なので終末期、看取りの方々には対応しきれないことはあらかじめご家族様に説明をし、納得いただいています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分説明しながら方針を職員間で共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、理解が不十分な家族がいるので、今後、丁寧に説明しながら方針を理解して貰い、利用者全員の家族が納得して貰えるよう取り組む計画なので、その実践に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進会議の一環として、消防の協力のもと「傷病者の応急手当」をテーマとした救命講習会を開催しました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難誘導訓練の実施。また、雌阿寒岳噴火想定大規模避難訓練にも参加。	年2回、夜間や日中を想定し、速やかに対応できるよう実技を伴う避難訓練を実施している。また、町主催の噴火を想定した自然災害の大規模避難訓練にも参加し、避難できる方法を全職員が身につけると共に地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフに尊厳に対する意識を高めてもらうよう啓発、教育していく時間をつくってます。	職員はプライバシーの確保の徹底を図り、内部研修を通じて本人の思いに沿ったケアに努めている。また、個人情報の取り扱いについては十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務的になったり押し付けにならない様にあくまで利用者様の意思、希望を第一に支援したいと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの概念で、あえて手間をかけて対応していくようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはお化粧をしたり、定期的に散髪をしたりその方個性を表現することを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の好物を提供したり、野菜の皮をむく、切るなど、できる範囲で一緒に行っています。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付けなど職員と一緒に、栄養バランスや水分・食事摂取量を把握している。また、外食する機会や出前を取ったりして食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を把握、脱水、摂り過ぎにならぬよう管理提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯洗浄は出来るだけ利用者様にお願いして、仕上げや自立困難な方はスタッフが対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し、トイレに誘導。基本は布パンツを使用していただき、夜間などはパットを使用していただいています。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならぬよう、体操を積極的に参加してもらい食材や飲み物にも注意しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	極力、利用者さんの希望に沿えるような時間設定をしています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回～3回以上を目安に支援している。また、温泉付きの浴槽や露天風呂の設備を有し、足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれの生活リズムや習慣などに合わせ違和感、ストレスを感じないでいただける様な生活を提供したいと考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法も個々の状態等に合わせた対応を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や菜園が得意な利用者様には、能力を存分に発揮していただける様、手伝っていただいたりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩や買い物に出掛けたりしますが、月に何度かは近郊や郊外に『おでかけ』の時間を設けています。行き先も、季節に合わせた場所や祭事など。	日常的な散歩や買い物、ドライブなど戸外に出かけられるように支援している。また、日帰りの回転寿司や温泉施設での外食、東藻琴の芝桜見学、幼稚園、小中学校の学会会や運動会見物など普段は行けないような場所への支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『おこづかい』という事でご家族様から預かっていますが、ご自身で持ちたい希望の方には所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族様への電話や手紙を書いています。混乱される恐れのある利用者様にはご家族様と相談して都度対応を考えています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の内装等は刺激になるような過度な配色は避け落ち着いた時間を過ごしていただける様に配慮した作りをしています。装飾品は、皆さんで作成した貼り絵など。	共用スペースは広くゆったりとしており、壁には季節に合わせた飾り付けや利用者と一緒に作ったシルバー作品展に展示した卵の殻を利用して作った貼り絵を掲示し、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どうしても気が合わない同士の利用者様もいらっしゃるのでフロアの座席の位置、向きなどに配慮しています。フロアで過ごす時間が多い方には、時々ゆったり過ごせる場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物や使い慣れた物などをお持ちになってもらっています。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にいつまでもお元気でいてほしい、出来るだけ自立した生活を送っていただきたいという考えで支援しています。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	ほうれそうが欠けている事があり、ケアにバラ付きを感じている。	スタッフ全員が状況や情報を共有し、良いケアに繋げていきたい。	記録や連絡ノートはもちろん、ヒヤリハットなど見落とさず、安全なケアにとりくんでいる。	12か月
2	53	個々の生活観が違うめ、慣れてきた利用者さん同士のトラブルが多くなってきている。	長年の生活を尊重しながら、一人ひとりが気持ちよく共同生活を送ってほしい。	マンツーマンの対応時間を大切に、それぞれの不満などを受入れながら、トラブルを未然に防ぐようにしています。	12か月
3	38	新しいケアを取り入れることができず、マンネリ化してきている。	新しいことを取り入れ、皆さんが新鮮に楽しく過ごせる時間を作りたい。	スタッフのスキルアップのため、外部研修や定期的な介護雑誌に目を通し、新しいレクリエーションケアを取り入れている。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。